

勝山市総合行政審議会（第10期第13回）結果概要

開催日時 平成21年9月18日（金） 午後1時30分～午後3時30分

開催場所 教育会館 1階 勝山公民館第1会議室

出席者等

出席委員 替地裕見子、川口真理子、川村律子、義野陽子、島田英治、羽生英昭、
藤田 昇、前川えみ子、和田雅弘

事務局 未来創造課

1 会長あいさつ

2 議題

（1）第5次勝山市総合計画の策定について

事務局 勝山市の人口推計等の資料を提示し説明
委員

・地区別座談会について、どのように告知をしたのか。座談会があるということだけで詳しい内容を把握していなかった。座談会参加者の年齢や男女比等はわかるのか。

事務局

・座談会については市広報で周知を図った。また、区長会を通してお願いしたが、参加者数を見ると地区によっては告知不足は否めない。
参加者については、ミニアンケートを実施しているので、その結果を見ると、若い方・女性の参加が少なかった。

委員

・10年間の長期計画を作るなら、できるだけ若い人の意見を聴いていただきたい。

委員

・厳しい時代の10年間の計画なので、策定は大変だと思う。人口推計を見ると市町村合併の話もでてくると予想される。市自体が何を基盤にしていくかが大事。市の基幹産業をどのように考えているのか。また、土地利用計画はどうするのか。小中学校の統廃合を実施すれば空き校舎が増える、これも課題である。「小さくてもきらりと光る」とは何かということをしきりと打ち出していく必要があるのではないか。

委員

・この時代に全て良くしていこうというのは無理。勝山にしかできないもの、よそに負けないものを選んで打ち出していくべき。どこでもやっていることでなく、独自のものを打ち出すことを期待している。

委員

・エコミュージアムでまちの誇りを再発見し活用してきたが、実際に一人ひとりの市民が、どれだけ誇りや愛着を持つことができるかが今後の課題。

委員

・勝山は自然も多く、子どもを育てやすいところなので、もっとその点をアピールして欲しい。地区別座談会には参加していない。自分のように働いている若い世代の人には夜しか子どもと接することが出来ない人が多く、夜の会議等に出席するのは難しい。

委員

- ・ゆめおーれ勝山のようにまちの歴史を残すことは大事なこと。都会の人には、人がいないこと、ゆったりしていることがうれしいことである。ゆめおーれ勝山は安くて楽しめるがさわれないのが寂しい。子どもより大人を増やすことが大事で、若い人には働く場が必要である。また、高齢者も子どもも同じだが、安心できる助け合いのシステムが必要。雪が怖いというイメージが大きい、ベッドタウン化するにしても雪が課題。

委員

- ・子どもは自分の通った小学校がなくなるのは寂しい、残して欲しいと言っている。学校が存続するよう子どもが増える政策を考えて欲しい。11月に福井社会保険病院に託児所ができる。自分も育児には苦労した覚えがあるが、女性が働きやすい環境を作って欲しい。

委員

- ・歳をとっていくと生活面での不安が大きい。地域で人と会える場、参加できるまちづくりができるといいと思う。地域医療の面では、福井社会保険病院の存続は大事である。また、仕事場が近くにあるといいと思うので企業誘致をお願いしたい。

委員

- ・第4次総合計画の10年間で第5次総合計画の10年間では全く違う10年間になる。希望は持っても夢はもてない時代がくる。世の中が変わってきているので、現実を見つめた身軽な計画が必要だと思う。第4次の結果を第5次につなげるのも大事だが、切り詰められるところは切り詰めることも大切。計画を行政中心で作っていくのはどうかと思う。市民の意見を十分取り入れて欲しい。地区別座談会は、ざっくばらんに住民の意見を取り上げられる場にして欲しい。

事務局

- ・今回の地区別座談会は、工夫して取り組んでいる。行政側の説明は短くし、市職員が座長となり、勝山市をよりよくするためにはどうしたらよいかグループで話し合っていた。そして提案や意見を地区の住民によって発表していただいた。第1のステップとしてはこれでよかったが、次の座談会の際には提案などを元に市の方針を持って行いたい。

委員

- ・年代別に地区座談会を実施して欲しい。特に若い人の意見を聴く場を作って欲しい。若い人からは違う意見がでてくるはず。計画には若年・中年の意見を反映することが重要。

事務局

- ・若い世代を対象とした市長となんでも語ろう会を別に実施する。また、教育委員会も望ましい小中学校のあり方にテーマを絞って座談会を実施する予定。

委員

- ・少子高齢化だからできないではなく、どのように少子高齢化を利用していくかが問題。人口の流出防止と市外からの流入を促す施策が必要。「小さくてもきらりと・・・」はまさに明るくさせるキーワード。地域コミュニティ、安心安全なまちづくりが大切である。今、残っているものを次世代に残すには今が最後のチャンスの時だと思う。

事務局

- ・少子高齢化社会を迎えて財政面でも厳しくなってくるのは間違いない。しかし、今の高齢者は元気であるので、このエネルギーを生かすためもう少しがんばっていただきたい。

委員

- ・勝山の魅力である自然を生かす、これしかない。農地の有効活用を考えるべき。

委員

- ・企業誘致よりも今までの産業を再活性化させる方が早いと思う。繊維産業にもうひとがんばりしてもらいたい。

委員

- ・何を基幹産業として軸にするのが重要。市民アンケート等で市民がより望んでいる方向性

を探り、マニフェストとの整合性をとりながら方向性を決めていくべき。将来人口をしっかり把握して、先を見据えて考えていって欲しい。そうすることにより先に手が打てると思う。

委員

- ・小さい市だから何事も行政がリーダーシップを取りもっと進めたらどうか。

事務局

- ・行政がよいと思ったこと、考えたことだけで計画をつくるのではなく、地区別座談会、アンケートを実施し、行政がもっている情報を市民のみなさんと共有しながら、十分ご意見をいただいたうえで計画をつくりたい。

委員

- ・周辺部からまちなかへ出やすいような交通体系の整備は大切。ぐるりんやコミュニティバスだけでは時間があわない。高齢者になったときのことを思うとに交通手段の問題は気にかかる。地域の中で助け合うシステムも必要。

事務局

- ・交通体系については、地域の高齢化が進む中での生活路線の公共交通体系、小中の統廃合があるとすれば統廃合後の公共交通体系、この2つが課題となる。この場合、中心部とを線で結ぶと同時に、面として地域コミュニティをカバーする交通体系の構築が必要だと考えられる。

委員

- ・小中学校の統廃合は1度やってしまったらもう戻れないが、議論を通じて小中学校の統廃合についての若い人達の気持ちについても理解できた。思いを語ることで流動していくし、回を重ねることで意見もまとまってくるのではないか。いろいろな年代の人が入って語ることが大事なので、そういう機会を作って欲しい。

事務局

- ・みなさんの任期はまもなく終了するが、総合計画の策定、評価など課題について引き続き取り組んでいく。現在、次期委員の公募をしているので、ぜひ継続して委員を継続してお願いしたいので、ご協力をお願いします。

以上